

日本を見つめ直し、楽しく生活、仕事しましょ、シリーズ。

近代建築最大の巨人、Frank Lloyd Wright（1867～1959 米国）は旧帝国ホテル、落水荘、グッゲンハイム美術館等で有名です。彼は、日本の伝統的建築様式や分化、浮世絵のデザイン性をこよなく愛し、研究し、世界にその魅力を発信してくれた人でした。

日本の伝統的建築様式の特徴を以下に抜粋してみます。

①柱で屋根を支える。

世界の多くの地域が、文明の早いころからレンガや石の外壁で屋根を支えることを選択したのに対して、日本人は木の柱で屋根を支えることを選択しました。その結果、前者は環境からの遮断性が強くなりますが、壁が重量物を支えているため窓が狭く、採光がとりにくくなります。後者は、柱が屋根を支えているため外壁は自由度が高く、採光や風など自然を強く感じることができますが、外界からの遮断性（防寒など）は弱くなります。

②外界との緩衝地帯。

玄関も日本家屋に特徴的なものです。外界との不潔と清潔の境界となり、プライバシーを損なうことなく接客対応もできる便利なものです。また縁側は外界と室内の境界を不明瞭にし、自然と一体感を感じさせる生活空間になっています。

③自由に開放的な生活空間。

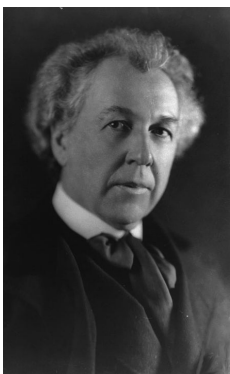
一般的に諸外国ではドアに伴う閉鎖空間の部屋の集まりが家の概念ですが、日本の伝統家屋では、外界に接する導線としての廊下と障子。部屋同士の間仕切りの襖。これらの開け閉め、開放の度合いによって部屋の機能が換えられたり、部屋がつながり、自由に開放的な生活空間になっています。

④自然との調和

建物と自然の調和に関して、特にキリスト教文化圏では、旧約聖書創世記にかかっているように、自然は人間によって支配されるものという観念があるため。そびえ立つことはあっても意図的に自然との調和を考えて家がつくられることは現代建築を除きありません。

④簡素の美（米国建築家、アントニン・レーモンドの言葉を抜粋します）

「日本以外のどこの文明が、美しくすることは、すなわち、不要なものを捨て去ることであると示しただろうか」



フランク・ロイド・ライト



旧帝国ホテル



落水荘



伝統的西洋家屋



室内



伝統的日本人家屋



室内



皇居謁見の間



バッキンガム宮殿謁見の間